

越後佐渡おもひろ歴史ばなし

石神村林泉寺文書に見る、ある女性の生涯

くびき 頸城郡石神村（現上越市頸城区）に、江戸時代の前半に創建された浄土真宗の林泉寺という寺での話です。19 世紀の初め、寺には常野^{つねの}という娘がいました。石神村林泉寺文書（注）には、常野に関する書状が約 130 点あり、彼女の書いた書状などを見ると、当時の一人の女性の生き方をうかがい知ることができます。

常野は文化 13 年（1816）に 13 歳で結婚しました。その後の経緯はよくわかりませんが、天保 4 年（1833）、30 歳の時に二度目の結婚をして近隣の裕福な農家に嫁いだとされています。しかしこれも 4 年で夫から離縁され、その後別な農家に嫁ぎ再婚しましたが、9 カ月で離縁されまた実家に戻ります。

天保 10 年（1839）10 月、彼女は、高田へ目の治療に行くとき、以前知り合った男と一緒に家族に何も知らせぬまま江戸へ旅立ちます。男は常野の着物など持ち物を質に入れ、彼女に結婚を迫るなどして振り回すのですが、彼女はなぜか江戸まで同行します。10 月のうちに江戸に到着すると、男から置き去りにされてしまい、常野は親戚のもとに身を寄せます。さらに実家からは突然家を出て身勝手な行動をする常野に対し、絶縁する旨の手紙が届けられました。

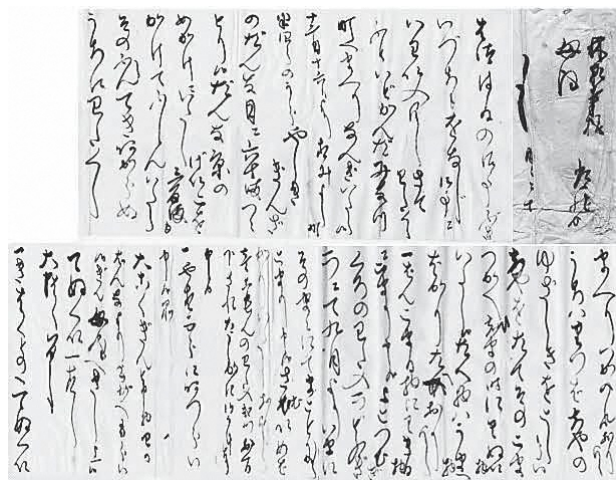
その後、常野は旗本の家の女中として働きますが、朝早くからの重労働のためすぐに辞め、別なところでまた女中として働くなど、しばらくはいくつかの仕事を転々としたようです。給料も一時は良かったらしいのですが、翌年 2 月に「食べ物には不自由がないが、故郷を出た時の着物しかなく寒い。着物を送ってほしい」と、縁を切られている実家の母へ宛てた手紙でお願いしています。しかし故郷に戻る気持ちは全くないのです。江戸での生活に魅力があったのでしょう。

江戸に着いて 1 年ほど経った頃、常野は同じ頸城

地方から来ていた井澤博輔と結婚をします。この頃、常野は名前を「きん」と改めます。しかし、しばらくして博輔が失業し、ふたりは貧乏で服はぼろぼろの極貧ともいえる生活を送ることになります。この頃江戸にいた弟は、この姉の姿を見て呆れてしまいます。結局、常野は夫と離縁し（形式的には夫から離縁され）、一度は石神村の実家に戻りました。ところが、博輔は「遠山の金さん」として知られる町奉行遠山金四郎景元のもとで働くことができるようになると、常野は再び江戸へ向かい、家族の反対を押し切ってふたりは再婚したのでした。常野は「きん」として江戸にとどまり、50 歳で亡くなったということです。

江戸時代にこのような奔放ともいえる女性がいたことは驚きかも知れませんが、越後の女性の逞しさ^{たくま}が感じられるのではないのでしょうか。

（注）林泉寺文書（請求記号 E9806）は、当館ホームページ「インターネット古文書講座」に一部掲載中。石神村の林泉寺はすでに廃寺となっています。



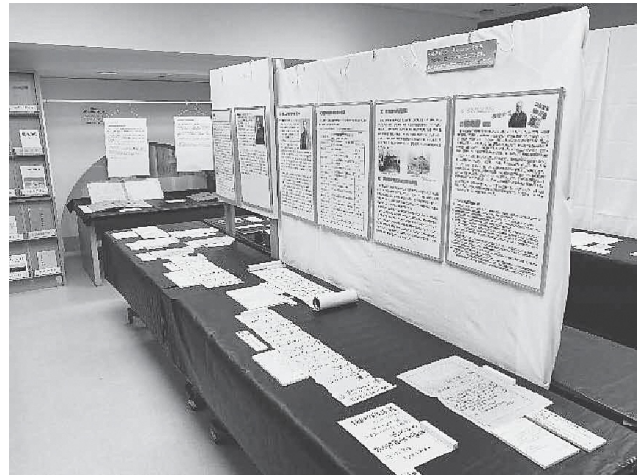
「常野から母に宛てた手紙」（一部）
（【中頸城郡石神村林泉寺文書】 E9806-1699）

令和3年度 特別企画展 「郵便今昔物語－郵便創業150年－」

令和3年10月19日(火)から11月7日(日)の期間にて、特別企画展「郵便今昔物語－郵便創業150年－」を開催しました。展示の概要の説明と展示資料の中から、数点をご紹介します。

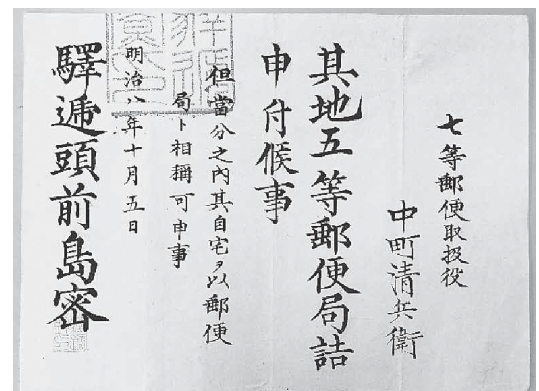
1. 「郵便」以前の通信制度

●古代…大化改新以降、情報伝達のシステムとして、いわゆる駅伝制と呼ばれる交通・通信制度が整備されていきます。 ●中世…律令制度の衰退とともに交通・通信制も乱れ、古代の駅伝制は廃れますが、荘園領主や地頭が台頭すると居住地と領地を結ぶ伝馬を置くようになりました。なお室町幕府は守護領国制の進展により街道交通の支配掌握ができず、この時代の様子は不明です。 ●戦国時代…戦国大名は領国内の商工業・流通を統制し、街道や伝馬を整備していきます。領国の要所に宿場や関所を設け流通経済の発展と国境警備をはかりました。 ●江戸時代…徳川幕府は江戸を中心に五街道・脇街道を設定し宿駅制を整備します。公儀(幕府)の連絡手段として継飛脚が、民間の連絡手段としての町飛脚などが現れます。



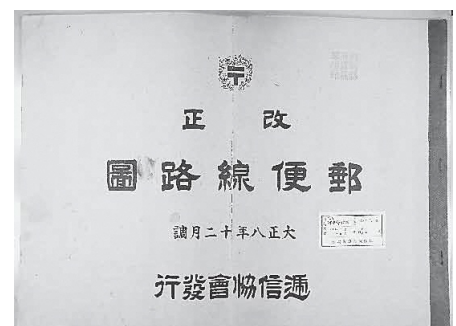
2. 前島密と郵便創業

近代日本の郵便制度を創設した前島密の生い立ちから郵便創業までの略歴や明治5年(1872)新潟市における新潟郵便役所の開設に伴う新潟県下の郵便制度の歴史を、北魚沼郡小千谷町中町家文書の中の郵便取扱役任命書などを用いながら説明しました。また、福沢諭吉や犬養毅、前島密といった著名人から届いた手紙や初期の電報の展示を行いました。



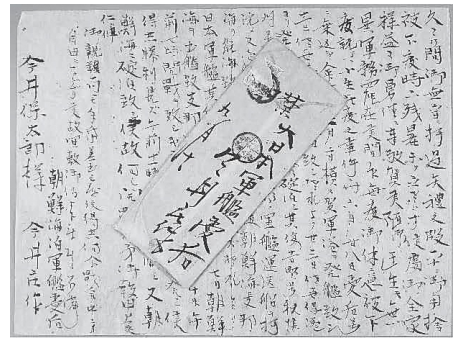
3. 郵便線路図

郵便線路図とは、郵便線路及び海陸の里程を記載したものです。明治10年(1877)および明治18年(1885)の線路図をパネルで、大正8年(1919)、大正18年の線路図は実物を展示しました。郵便物輸送の道筋や里程などが記載されています。



4. 郵便で戦争を知る

軍事郵便とは戦地へ出征する軍人に発着する郵便物の取り扱いについての制度です。日清戦争開戦の年である明治27年(1894)に定められ、太平洋戦争の終戦直後まで続きました。企画展では日清戦争・日露戦争・太平洋戦争期の軍事郵便を展示しました。日清・日露戦争期のものは相手軍との詳しい戦況などが記されていましたが、太平洋戦争期になると軍事的なことを記載することが許されなくなっていた様子を知ることができます。



5. 職場体験に来てくれた中学生による企画

職場体験に来てくれた新潟市立鳥屋野中学校の生徒さん2名から「こんなこともあったんだ！郵便の昔話」と「私のお気に入り！新潟県風景印ベスト10」の展示パネル作成を手伝っていただきました。来館された方々から好評でした。



令和3年度 第1回～第6回企画展 紹介

整理が終わり、ここ数年で閲覧可能となった資料を使った企画「お待たせしました！文書館で見られる新資料」を全6回にわたり企画しました。各回の企画内容は以下の通りです。

○第1回 「江戸の村医者から明治の病院へ」

〔4月27日(火)から6月27日(日)まで〕

○第2回 「幕藩体制を支えた村役人の文書～堀之内組大庄屋宮家と見附町大庄屋金井家～」

〔6月29日(火)から8月29日(日)まで〕

○第3回 「文書館収蔵資料にみる印鑑使用の歴史」

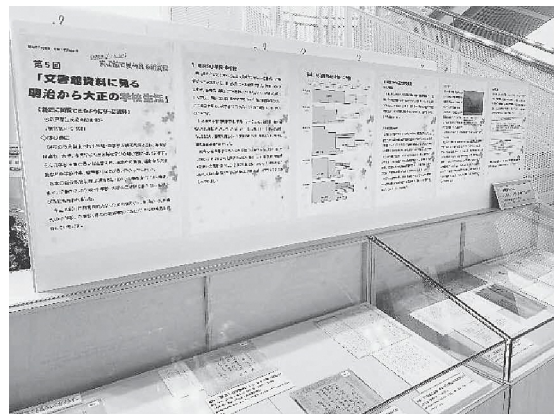
〔8月31日(火)から10月17日(日)、11月9日(火)から11月28日(日)まで〕

○第4回 「岩船郡関川郷 山の村の暮らし」2時間目

〔11月30日(火)から1月16日(日)まで〕

○第5回 「文書館資料に見る明治から大正の学校生活」〔1月25日(火)から3月13日(日)まで〕

○第6回 「近世の村の事件簿」〔3月15日(火)から5月1日(日)まで〕



.....

令和4年度 文書館主催講座一覧

.....

○古文書解読講座

講座名	日程	会場	定員	申込開始日
はじめての古文書講座（春季）	5/12・19・26（木）	制作演習室	15名	4/12（火）
はじめての古文書講座（秋季）	11/9・16（水）・24（木）	制作演習室	15名	10/7（金）
古文書初級解読講座（夏季）	A：6/29・7/6（水） B：7/1・8（金）	大研修室	45名	各コースとも 5/27（金）
古文書初級解読講座（冬季）	A：12/7・14（水） B：12/9・16（金）	大研修室	45名	各コースとも 11/4（金）
古文書解読講座（夏季）	8/17・24（水）	大研修室	45名	7/15（金）
古文書解読講座（冬季）	1/25・2/1（水）	大研修室	45名	12/23（金）

※時間はすべて13：30～15：30の2時間です。 ※テキスト代として100円が必要です。

※古文書初級解読講座については、A・Bコースともに同一内容です。

○「新潟県の歴史」講座

※講師は県内外の歴史研究者を予定しています。

講座回	日程	会場	定員	申込開始日
第1回	9/24（土）	ホール	63名	8/23（火）
第2回	3/4（土）	ホール	63名	2/3（金）

※時間はいずれも13：30～15：30の2時間です。

※受講無料

○特別企画展解説講座

※A・Bコースともに同一内容です。

コース	日程	会場	定員	申込開始日
Aコース	10/26（水）	大研修室	45名	各コースとも 9/22（木）
Bコース	11/2（水）	大研修室	45名	

※時間はいずれも13：30～14：30の1時間です。

※受講無料

◇各講座の定員については、令和3年度末時点での収容可能人数です。今後の感染症の拡大状況により増減することが予想されるため、詳しくは申込開始時の各講座のチラシをご確認ください。

アーキビスト 文書館職員随想

近年、「OCR（特定の画像から文字を見つけ出して文字データに変換する技術）」を導入し、業務の効率化を図っている職場が増えているそうです。このOCRにAI技術を搭載することにより、古文書の解読にも応用されるようになったというから驚きです。今後も研究が進み、高精度の解読ツールになっていくことは間違いのないと思われます。すでに崩し字を解読するスマートフォン用アプリも登場しています。

地域には歴史的な価値があるにもかかわらず、解読困難であるために活用不十分な古文書が多く残されています。また、扱いがわからずに廃棄されてしまうという残念なケースも少なくありません。

しかし、古文書の解読に興味を持っている人も多いのも事実です。最新の技術を有効に活用すること

ができれば、もっと気軽に古文書に触れ合えるようになるでしょう。そうなれば、古文書の保存についてもっと関心が高まるかもしれませんし、（専門家でない）多くの人々が保存や解読に関わることで、新たな知識の発見につながるかもしれません。

（横田記）

編集・発行 新潟県立文書館

〒950-8602 新潟市中央区女池南3丁目1番2号

TEL 025-284-6011 FAX 025-284-8737

URL https://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/?page_id=569

E-mail archives@mail.pref-lib.niigata.niigata.jp